農政連情報

# みどりの風

Noseiren Jyouho Midori no Kaze

平成23年 7月号 No.258

発行／熊本県農業者政治連盟　JA 熊本県会館内　熊本市南千反畑町２－３　電話 096-328-1284　編集責任者　木村　幸孝
発行／毎月１回　15 日発行　平成９年７月４日第三種郵便物許可

## 主な内容

・県女性協通常総会開く
・TPP も農業改革も先送りに
・産地情報の伝達を義務付け
・芦北総支部活動報告
・ガンバッテいます
（善積智晃さん、県女性協三役）
・各連合会からのお知らせ

**菊池渓谷（菊池市：写真提供　熊本県）**

菊池川の源をなす菊池渓谷は、標高 500 ～ 800 mに位置し、夏の平均水温は 13 度と低く避暑地として最適である。行政上は阿蘇市と菊池市に属し、一帯は阿蘇外輪山を取り囲むモミ・ツガ・ケヤキなど、広葉樹の原生林に覆われている。春は新緑、秋は渓流に映える紅葉がすばらしい。

## せせらぎ

政界が大きく揺れている。東日本大震災の被災者の支援と、被災地の復旧・復興。更には福島原発事故による、放射線の大気中への大量放出。加えて３０００トンを超える放射能汚染水の処理等。国を挙げて全力で取組まなければならないこの時期に何故と、国民は呆れてしまう。

民主、自民、公明の三党は、震災復興の枠組みを決める「復興基本法案」の修正案に合意し、成立することとなった。しかしながら、菅首相がこだわる今年度第二次補正予算案や特例公債法案は、野党の反対により、成立の見通しがたたない。

菅首相は会期の大幅延長により、これらの法案の成立を目指すとしている。しかしながら民主党は、延長により菅首相の居座りが続くことを認めず、会期末の延長を見送る方向で調整に入った。

当初菅首相は、民主党執行部に対し、会期を年末までとする大幅延長を指示していた。しかしこれでほぼ6月末の退陣も見込まれることとなった。

加えて、民主党は震災復興とともに、消費税増税による、税と社会保障の一体改革の実現を目指したいとする。とりわけ政府の集中検討会議は、消費税を段階的に引き上げ、四年後の「税率10％」を目指すとしている。このため、一定期間の自民党、公明党との大連立が不可欠とする。

「大連立という声だけが妙に強調されているが、政策の方向性をしっかり打ち出せるか見ないといけない。」（谷垣禎一自民党総裁）

今回の政治の動きは、我々一般の国民には非常にわかりにくい。各党を巻き込んだ巧妙な権力争いが、見え隠れする。

政府は、今最も重要なことが、被災者の自立への強力な支援と、被災地復興への具体策の実施であることを、肝に銘じていて欲しい。

# 県女性協通常総会を開く

## 会長に野中育代さん再任

▲挨拶する野中会長

ＪＡ熊本県女性組織協議会は、５月12日ＪＡ熊本教育センターにおいて、代議員や女性部関係者ら約１７０名の出席のもと、第58回通常総会を開催しました。

同総会では、平成22年度活動報告・収支決算書の承認及び23年度活動計画・収支予算書（案）の承認等に加え、現役員の任期満了に伴う新役員の選任など、４議案について付議し、全議案承認されました。また、議事に先立ち連合会及び女性協による、優良女性部表彰が行われました。

再任された野中会長は、「わたしたちの活動は、参加と継続が大変重要です。基本方針と重点活動項目を中心に積極的に取り組んでいきます」と抱負を述べました。

平成23年度は、ＪＡ全国女性協の基本方針やＪＡ熊本県大会決議に基づき、次の重点事項を掲げ取り組む事としました。

### 重点活動項目

1. 「ＪＡ熊本県女性組織協議会新３ヶ年計画」の着実な実践
2. ＪＡくらしの活動への取り組みへの参画・支援
3. 「家の光」の記事を活用したＪＡ女性組織の生活・文化活動の実践
4. 関係組織・地域との連携強化

総会終了後、女性組織リーダー並びに事務局合同研修会を開催し、宮崎県都城市在住で、「都城諸県方言語りおかしむじ会」代表の竹原由紀子氏を講師に〝火の国に生きる女性たちへの伝言〟と題し、講演会を行いました。

### 選任された新役員

会長　野中　育代さん（再任・ＪＡあまくさ）
副会長　寺本　眞理子さん（再任・ＪＡあしきた）
副会長　堀田　優子さん（ＪＡ熊本うき）

▲野中会長（中央）、寺本副会長（右）、堀田副会長（左）

# ＴＰＰも農業改革も先送りに

フランスで開催されたＧ８サミットに出席した菅総理は、５月26日オバマ米大統領と会談し、ＴＰＰ交渉参加問題について「できるだけ早期に」結論を出すと明言。オバマ大統領は「震災にもかかわらず引き続き検討していることを評価したい」と述べ、日本の参加に期待感を示しました。

同じく菅総理は、28日ＥＵ（欧州連合）の大統領や欧州委員長との会談においても、日本とＥＵとのＥＰＡ（経済連携協定）締結について協議し、予備交渉を即時開始することで合意しています。これは、７月１日に韓国とＥＵ間でＦＴＡ（自由貿易協定）が発効することに刺激を受けたもので、年内にも本交渉入りする見通しとなっています。また、日中韓でのＦＴＡの共同研究も年内終了を目指しており、来年には交渉が始まる見通しです。

ところで、政府は先にＴＰＰ交渉への参加の可否について、震災復興を再優先する観点から、当初６月としていた判断時期を数ヶ月間先送りし、〝総合的に検討する〟とした「政策推進指針」を閣議決定しています。

しかし、中止ではなく単に結論を先送りしただけであり、情報収集などＴＰＰ関係国との協議を進めるとした、政府方針自体に変わりはありません。ＴＰＰ推進派の経済閣僚は、「11月までには日本の態度は決めないといけない（与謝野経財相）」、「国を開く方針は守る（海江田経産相）」と、それぞれ述べています。

一方、この閣議決定について、経済団体幹部は「震災復興に向けてＴＰＰの意義はむしろ高まっている」と語り、「ＴＰＰ推進を全面的にバックアップしてきた経済同友会としては極めて遺憾」と憤りを露わにしています。加えて、米政府は11月ハワイで合意を目指すＡＰＥＣ首脳会議が、「難しい交渉になる」と懸念を表明しています。

また、「食と農林漁業の再生推進本部」が、貿易自由化と両立する持続可能な強い農業を育てるとした農業改革の基本方針や、10月に策定予定であった国内対策の中長期的な行動計画も、〝日本再生全体のスケジュールや復旧・復興の進行状況を踏まえて検討する〟として、見直しを行っています。

このような状況の中、６月１日、自民・公明・たちあがれ日本の野党３党から内閣不信任決議案が提出されました。翌２日の採決の結果は、反対多数で否決されたものの、菅総理が退陣の意向を表明したことで、政府のＴＰＰ参加可否の判断時期も農業強化策についても、これまで以上に先行きが不透明となっています。

# 米トレーサビリティ制度について

～米穀等の取引等に係る情報の記録及び産地情報の伝達に関する法律～

**平成 22 年 10 月 1 日から施行された米穀等の取引等の記録・保存に加え、平成 23 年 7 月 1 日から「産地情報の伝達」がスタートします。**

## 米トレーサビリティ法とは・・・

問題が発生した場合などに、流通ルートを速やかに特定するため、米穀等の取引等の記録を作成・保存すること、産地情報を取引先や消費者に伝達すること、を義務付けるものです。

### ◎対象品目

米穀（玄米・精米等）、米粉や米こうじ等の中間原材料、米飯類、もち、だんご、米菓、清酒、単式蒸留しょうちゅう、みりん

### ◎対象米穀事業者

生産者を含め、対象品目となる米・米加工品の販売、輸入、加工、製造又は提供（飲食店など）の事業を行う全ての事業者

## 産地情報の伝達

対象品目である米・米加工品（飼料用などの非食用のものは除く）を、他の事業者へ譲渡したり、一般消費者へ販売・提供した場合は、産地情報の伝達が必要です。

### ○事業者間における産地情報の伝達

対象品目を他の事業者へ譲渡する場合には、伝票等又は商品の容器・包装へ記載することにより、産地（注１）情報の伝達が必要です。

### ○一般消費者への産地情報の伝達

一般消費者に米・米加工品を販売する場合には、米トレーサビリティ法に基づき、産地情報の伝達を行うことが必要となります。

ただし、ＪＡＳ法で原料原産地表示の義務がある玄米・精米・もちは、ＪＡＳ法に従い、これまでどおり表示をしてください（注２）。

また、外食店等では、米飯類のみ産地情報の伝達が必要です。

（注１）産地：米の場合はその産地、米加工品の場合はその原料米の産地。

（注２）一部の商品については、ＪＡＳ法に加え米トレーサビリティ法に基づいて産地情報伝達を行う必要があります。

**詳しくは、下記へお問い合わせください。**

**【問合せ先】**

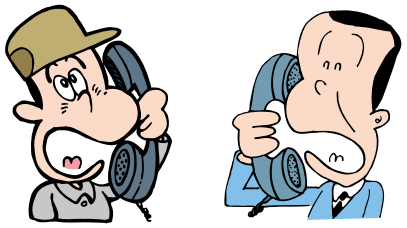
農林水産省九州農政局　食糧部消費流通課 TEL：096 － 211-9111（代）

■消費・安全部地域第一課 TEL：096-211-9111（代）
（管轄：熊本市、宇城市、宇土市、下益城郡、上益城郡）

■消費・安全部地域第二課 TEL：0965-35-7311
（管轄：八代市、氷川町、天草市、上天草市、苓北町）

■消費・安全部地域第三課 TEL：0966-22-5144
（管轄：人吉市、球磨郡、水俣市、葦北郡）

■消費・安全部地域第四課 TEL：0968-25-2137
（管轄：荒尾市、玉名市、玉名郡、山鹿市、菊池市、菊池郡、合志市、阿蘇市、阿蘇郡）



# 芦北総支部活動報告

## 国政報告会

▲金子代議士による国政報告会

ＪＡあしきたは１月16日、環太平洋経済連携協定（ＴＰＰ）や世界貿易機関（ＷＴＯ）など、国政の理解を深める目的で、衆議院議員金子恭之代議士の国政報告会を行いました。

当日は、ＪＡ役職員や青壮年部・女性部など約１００人が参加し、日本農業の現状と将来について学習しました。

食の安全・安心が叫ばれている今日、ＴＰＰ参加によって日本の食料自給率はわずか１４㌫にまで低下すると言われています。食料のほとんどを外国産に頼ることになり、農業者や関係企業に与える影響は大きく、雇用の減少や環境問題なども懸念されています。

今後は、ＪＡだけでなく地域全体へTPPの理解促進を徹底して行い、地域農業の活性化にも力を入れて取組みます。

## わくわく土曜学校

芦北町の芦北教育サークルは昨年１２月２６日、ＪＡあしきた女性部の協力のもと、「わくわく土曜学校」の料理教室を開きました。

「わくわく土曜学校」は、百人一首や理科実験、親子料理教室などの活動やイベントを通して、子どもたちに食と農や故郷について楽しく学んでもらう目的で、毎月第４土曜日に開催しています。

今回の親子料理教室では、米粉の消費拡大と地元の食材を使った郷土料理で、イチゴ大福、米粉ピザ、米粉のだご汁を作りました。子どもたちは女性部の指導のもと、米粉独特の艶とモチモチした感触に、興味深い様子で調理を行っていました。出来上がった料理はみんなで試食し、参加した親子は「作り方がとても簡単で美味しかった。家でも子どもと一緒に作りたい」と話していました。

今後も同女性部は、地域の子どもたちに食と農、地域の文化を伝える活動を続けていきます。

善積　智晃さん
県青協委員長（ＪＡ熊本うき）

5月10日の県青協通常総会で、弱冠31歳と言う若さで委員長に選任された、善積智晃さんを取材しました。

美里町出身の善積さんは、熊農高を平成10年に卒業し、花卉栽培に取り組んで12年目なります。

## ■シクラメンとカーネーション

善積さんが就農した時点では、両親がメロン栽培をしていましたが、2年目に10ａのハウスでパンジーを始めたのが、花との出会いです。

現在は、40ａのハウスで主に鉢物のシクラメンとカーネーションを、奥さんと両親の4人で栽培しています。

「カーネーションは1月に苗を定植し、5月の『母の日』までの10日間で出荷してしまいます。この時ばかりは、戦争のような忙しさです。また、シクラメンはカーネーションの出荷が終わった6月に苗を定植し、11月～12月にほぼ毎日出荷します」とのこと。出荷先は、直接、県内の花卉市場へ持ち込んだり、九州管内の5つの市場へＪＡ扱いで配送しています。

シクラメンを育てるのは難しいためか、県内で栽培している農家は10戸程度ですが、月に1回はお互い集まって意見交換をし、品質向上を目指して勉強会をしています。「今後は、消費者の嗜好や時代の流れに合わせて、経営をしていきたい」と語っていただきました。

## ■県青協委員長として

就農時からＪＡ熊本うき青壮年部員として活動し、県青協副委員長から委員長に選任された善積さんは、「まずは、盟友一人ひとりが我が家の営農をしっかりやる事です。そして、各地区で地域のリーダーとなって活動し、それを県域での運動につなげて欲しい。また、農政の課題が山積していますが、それぞれの知識を修得してから発信することが大事です。その時は、しっかりとした自分の考えを持って提案する必要があると思います。部員数は年々減少していますが、関係者の皆さん方のご支援をいただきながら精一杯頑張ります。また、家族には負担を掛けますが、引き受けた以上は責任を持ち、最善を尽くします」と力強く抱負を述べられました。

## ■好きな言葉

ヤレでやるよりヤルでやる

「5年ほど前に、ある会合の講演で聴いた言葉です。私は農家の長男として生まれましたが、親からは跡を継げとは言われませんでした。しかし、人に指図される事が苦手な性格ですので、農業を選択した訳です」

# ガンバッテいます

左から
寺本さん、野中さん、堀田さん
ＪＡ熊本県女性組織協議会　新三役

## ■熊本県女性協新役員の抱負

五月十二日にＪＡ熊本県女性組織協議会通常総会が開催されました。同総会の役員改選で選任された新役員に、それぞれの抱負をお伺いしました。

### 会長　野中　育代さん

野中さんは平成二十一年に会長として選任され、今回、再任されました。

「私達の活動は、参加と継続が大変重要です。今後とも基本方針と重点活動項目を中心に積極的に取り組んでいきたいです。また現在の農業分野はとても苦しい状況にあります。そんな中、女性部の存在を生かして支援できることがあれば支援していきたいです。

青壮年部との連携を図り、また一般消費者との交流も、これまで以上に深めていくことも大事だと思っています。そして、皆がいきいきと活動できるような組織を目指していきたいと思っています。」と、抱負を述べられました。

### 副会長　寺本　眞理子さん

寺本さんも平成二十一年に副会長として選任され、今回、再任されました。

「女性部員の減少が気になっています。特に、専業農家の加入が少なくなってきています。だから専業農家が参加しやすい女性部活動を模索したいと思っています。同時に地域に開けた女性部活動も展開したいです。

副会長は会長の補佐役です。しっかりと役目を果たしたいと考えています。」と、抱負を述べられました。

### 副会長　堀田　優子さん

今回新たに役員に選任された堀田さんは、これまで宇城女性協理事として活動されていました。

「女性部というのはＪＡを通じて様々な学習の場があり、よりよく生きる方法をたくさん学び、楽しく元気に頑張っている組織です。ＪＡもこれからは暮らしを中心とした事業に向かって行く事になるでしょう。さらに女性の応援が必要となってくるでしょう。両者をつなぐパイプ役となり、これからも頑張っていきたいと思いますので、皆様方のご指導ご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。」と、抱負を述べられました。

## ……JA中央会……

### JAグループ支援隊として福島に10名派遣

JAグループ熊本は、東日本大震災JAグループ支援隊として、JA中央会・連合会職員10名を、5月16日～28日に2班編成で福島県に派遣しました。

▲JAグループ熊本支援隊出発式

### ～復旧作業に従事して～

私たちが作業したのは、福島県JAそうま管内にある新地総合支店・新地営農センターでした。主に施設（低温倉庫、ライスセンター、育苗倉庫、納豆加工所など）の清掃を行ないました。ここには津波が1～2メートルの高さまできており、施設内は津波が運んできた泥やガレキなどで埋め尽くされ、悲惨な状況でした。

作業は始めに、施設内に流れ込んだガレキや流木などを運び出し、その後、床にたまった土を除去しました。震災から2ヶ月以上経っていましたが、施設内には人手がまわっておらず、復旧・事業の再開にはまだまだ時間がかかりそうでした。

また、周辺の農地についても、ほとんどが被災当時のままの状態になっており、今年の作付けは厳しいそうです。しかし、津波が来ていない水田は既に田植えがされており、津波が到達したかどうかで明暗が分かれているようでした。家屋・農機などが被害に遭った農家の中で、特に高齢の組合員については、これを機に農業を辞めるという人が大半であるということでした。

そのような中でも、被災地のJA職員・組合員と接してみると、皆さん復興にむけて一生懸命作業を行ない、また何年かかっても元の相馬に戻すという意気込みが感じられました。JAそうま職員の「数年後に、元気になった相馬に遊びに来てください」という力強い言葉が、とても印象的でした。

私たち支援隊も、少しではありますが、復興に向けての一助になれたのではないかと感じました。

▲施設内の清掃作業の様子

## ……JA経済連……

### JAグループくまもと農作業安全運動出発式

～広報車が県下各地域を巡回中！～

▲職員らに見送られて出発した広報車

JA熊本経済連・JA農機自動車技術指導士会は、5月24日、農作業事故防止を呼びかけ、農家組合員の農作業安全意識の向上をはかるため、経済連玄関前広場で、「JAグループくまもと農作業安全運動」の出発式を行いました。

これは、農家組合員に農作業安全の重要性、意識向上をはかることを目的に実施しています。運動は年間を通して行い、特別推進期間として、5月24日～6月23日（上期）と11月1日～11月30日（下期）の2ヶ月間。県下各地域を広報車で巡回し農作業安全の重要性を呼びかけます。同経済連やJAの農機関係者が巡回を担当。今年のテーマは〝明日への約束〟。「あなたの帰りを待っている人がいます」を広報車の看板にしています。また、ラジオでの呼びかけや、農作業安全標語を貼った関係車両の管内巡回でも、事故防止の呼びかけを行っていきます。

出発式では、指導士会の代表者が安全指導宣言の5ヶ条を読み上げ、広報車を参加者150名が見送りました。また経済連では、「平成22年度の事故件数は前年度より減少。これからも農業機械を扱う者の使命として啓発活動を強化し、事故ゼロをめざしたい。」と農作業安全運動に力を込めています。

### 武田鉄也さん被災者へエール！

5月22日、熊本農畜産物イメージキャラクターの武田鉄也さんは、東日本大震災の被災地救援活動のため岩手県を訪問。熊本県産の無洗米「熊水そだち」500kgと、被災地からリクエストのあった下着類、水を届けました。

武田さんが訪れたのは陸前高田市立第一中学校、大船渡地区公民館、リアスホール、赤崎漁民センターの4ヵ所。ミニコンサートを行い、「贈る言葉」など4曲を唄って被災者へエールを送りました。

▲「熊水そだち」を送った武田鉄也さん

## ……JA共済連……

### 23年度　JA共済 サンキューキャンペーン実施中

JA共済では、創立以来、みなさまに「お会いすること」を最も大切にしています。

23年度も、組合員・利用者の方々一人ひとりのニーズに則した、きめ細やかな保障提供を目指して、全戸訪問活動「30訪問活動」に取組んでいます。

ご自身やご家族の保障について気になること、ご不明・ご心配なことなど、JA職員がお伺いしアドバイスいたします。新しい安心は新しい出会いから……。どうぞお気軽にお尋ねください。

あわせて、日頃の感謝をかたちに……。「サンキューキャンペーン」を実施しています。アンケートに答えてご応募いただくと、「パナソニック　電動アシスト自転車」、「パナソニック　加湿空気清浄機」や、JA共済オリジナル「アンパンマンラグマット&ロングクッションセット」などを、抽選で156,000名様にプレゼントいたします。

また応募者の方で、次回のライフアドバイスを希望された方には「ライフアドバイス賞」へ応募いただけ、「選べる家電カタログ（パナソニック製）」を抽選で1,600名様にプレゼントいたします。

応募期間は、平成23年4月1日～平成24年3月31日まで、左表のとおり年間4期。第1期の締切は、平成23年6月30日となっています。詳しくは、JA窓口でお尋ねください。

また、これまでJA共済のご契約がない方をご紹介いただき、その方がご成約された場合、ご紹介くださったみなさまに、「ILLUMS　カラフルマグネットフォトフレーム（ご友人コース）」や「スチームシリコンケース（ご家族コース）」を、各コース先着15,000名様にプレゼントいたします。新しい仲間づくりにどうぞご協力ください。

| 応募期間 | 応募締切 |
|---|---|
| 平成23年4月1日～平成24年3月31日 | 第1期：平成23年4月1日～平成23年6月30日 |
| | 第2期：平成23年7月1日～平成23年9月30日 |
| | 第3期：平成23年10月1日～平成23年12月31日 |
| | 第4期：平成24年1月1日～平成24年3月31日 |

## コラム　食と農

### 食生活を見つめ直す場を提供する『ベジラジオ』放送中！

ベジラジオは、関東の都市生活者を主なターゲットに、健康のためになる食事やライフスタイルを提案して、食生活について考え直すきっかけを提供する場を目指しています。

特色は、テレビや新聞にある情報の一方通行とは異なり、リスナーが自ら発言して番組に参加しながら、食と農への意識を深めていくことです。

例えば、東京の食料自給率1％。そんな東京で生産した食材だけでバーベキューはできないか。そんな疑問から生まれた企画が「東京ローカルバーベキュー」です。東京の生産者やレストランのシェフ、番組リスナーが集まり、収穫の秋に立場も世代も超えてバーベキューを楽しみました。

もう一つの特色は、パーソナリティーの石川實が、産地と消費者と結びつける行動を実践していることです。例を挙げると、雹（ひょう）が降って梨に傷がついたため、中身に問題はないのに、外見が悪いため出荷できず「どうにかできないか」という声が寄せられました。そこで、都内で生ジュースにして販売することを実現しました。

東日本大震災の発生以降は、風評被害を払拭するために正しい知識の啓発に取り組んでいます。福島県産というだけで、昨年に収穫して既に東京に運ばれていた米さえも売れなくなったことを紹介すると、「何か応援できないか」という声が数多く寄せられました。そこで「福島米を食べようキャンペーン」と銘打ち、TFMビルで福島県産米を販売したところ、数多くのリスナーが参加して、たちまち売り切れました。

**■「LISMO　WAVE」で全国で聞こう！**

『ベジラジオ』は首都圏のラジオ番組ですが、auのAndroid端末など、携帯電話の一部機種で利用可能なストリーミングサービス『LISMO　WAVE』で、全国で聴取できます。（詳細は右記URL参照　http://www.au.kddi.com/seihin/ichiran/smartphone/app/lismo/lismowave/index.html）

「よい食クイズ」

**Q．ウナギは目によい食材である。**

ウソ？　ホント？

←正解は裏面へ

抽選で総計

**156,000名様にプレゼントが当たるキャンペーン実施中！**

応募期間：平成23年4月1日～平成24年3月31日

●詳しくは、お近くのJA(農協)へお問い合わせください。

■ホームページアドレス http://www.ja-kyosai.or.jp

1148105014

**「よい食プロジェクト」を展開中！**

ＪＡグループでは、安全・安心な国産農畜産物を提供する取り組みとともに、食のあり方や食料自給率の向上をアピールするため、『食は、日本の未来』をテーマに「みんなのよい食プロジェクト」を展開しています。

このプロジェクトは、これからの日本人にとって「よい食」とは何かを、日本の農家とＪＡグループ、そして消費者のみなさんが一緒になって考え、行動していく運動です。

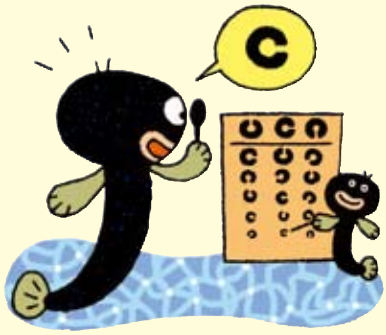
JA 熊本中央会


【よい食クイズ】

## 答え：ホント。

ウナギに豊富に含まれるビタミンＡは、目の粘膜を潤して網膜を健康に保つ働きがあります。栄養を取ることは必要ですが、目が疲れたら休ませることも大切ですよ。

※出典：「みんなのよい食プロジェクト」ホームページ「知ってトクする『よい食』ドリル」を基に作成



## あとがき

●ヨシキリ（葭雀、行々子）
スズメ目ヒタキ科ウグイス亜科の鳥

日本には、オオヨシキリ（体長18㎝）とコヨシキリ（体長14㎝）の2種が、夏鳥として飛来する。両種とも、背面は淡褐色で腹面は黄白色である。オオヨシキリは、同じ科目のウグイスとは頭の冠羽の有無で、コヨシキリとはより茶色っぽい背中の色で見分けられる。また、オオヨシキリは大きな声でさえずり、主に水辺の葭原などに生息するが、コヨシキリは啼き声に特徴がなく見付け難く、低地から山地の草原に住む。

**麦の出来　悪しと鳴くや　行々子（虚子）**

●盟友の皆様のご意見や周辺地域の話題、写真等、各地区の総支部・支部（ＪＡ本・支所）へお寄せいただければ幸甚に存じます。


連絡先　熊本県農政連
電　話０９６－３２８－１２８４
ＦＡＸ０９６－３２６－５８０７